Grow the new Story.
新しい物流で、新しい社会を、共に育む。

SGホールディングス株式会社

2027年3月期第2四半期

決算説明資料

2026年11月6日

1. **エグゼクティブサマリー** **1 ～ 5**

2. 決算概要及び業績予想 6 ～ 9

3. セグメント別進捗 10 ～ 16

4. M&A成果とキャッシュアロケーション方針 17 ～ 21

5. 参考資料 22 ～ 35

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期　決算ハイライト

	2027年3月期 第2四半期実績		2027年3月期 第2四半期累計実績			2027年3月期 通期予想(11/6公表)		
営業収益	4,731億円	前年同期差 +579億円	9,204億円	前年同期差 +1,378億円	予想差 +744億円	18,200億円	前期差 +1,752億円	前回予想差 +800億円
営業利益	213億円	+2億円	414億円	+29億円	+54億円	1,000億円	+97億円	+30億円
経常利益	192億円	△9億円	397億円	+16億円	+57億円	980億円	+62億円	+30億円
親会社株主に帰属する四半期純利益	156億円	+25億円	279億円	+46億円	+79億円	650億円	+59億円	+50億円
ROE						11.8%	+1.3pt	+0.8pt
ROIC						7.0%	+0.0pt	+0.2pt

第2四半期実績

- デリバリー事業：個数の伸長が収益に貢献。年末繁忙期の安定的な輸送体制構築のため、輸送能力を先行確保
- ロジスティクス事業：低温物流の好調が1Qから継続。国内3PLも新規案件の獲得等により堅調
- グローバル物流事業：航空運賃の高止まりや取扱物量の増加が継続し、通期利益予想を前倒しで達成

通期予想

- ロジスティクス事業及びグローバル物流事業の堅調な進捗を踏まえ、連結営業収益と各段階利益予想を上方修正
- 第2四半期に実施した政策保有株式の売却に伴う特別利益も考慮

資本政策

- 2027年3月期業績予想の上方修正を踏まえ、当期配当予想を引き上げ（当期配当予想：1株当たり54円　→　55円）
- 中期経営計画の方針に則り、自己株式取得150億円の実施

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) 2025年度に取得したMorrison Express Worldwide Corporation（以下、モリソン）の取得原価の配分が2026年3月期末決算後に確定したため、確定後の業績を反映した前期業績と比較（以降も同様）

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 主要事業の進捗・見通し

■ **デリバリー事業は、取扱個数が堅調に推移し、営業収益は計画を上回る進捗。他方で、年末繁忙期の安定的な輸送体制構築に向けて輸送能力を先行的に増強したこと等を踏まえ、通期予想の営業利益を下方修正**
■ **ロジスティクス事業及びグローバル物流事業は、堅調な業績進捗を踏まえ、通期予想を上方修正**

デリバリー事業

（億円）

	2Q累計 実績	期初 通期予想	修正後 通期予想
営業収益	5,374	10,900	↗11,050
営業利益	249	760	↘ 730

△

（進捗・評価）
- 個数は計画をやや上振れ、単価は計画を下回るが営業収益は増加
- 繁忙期の輸送体制構築のための先行確保等が利益に影響

（下期見通し）
- 個数は期初計画をやや上回る想定、単価は上期比改善を見込む
- 外注費等コスト増は見込むが、効率化と単価引き上げでカバー

ロジスティクス事業

（億円）

	2Q累計 実績	期初 通期予想	修正後 通期予想
営業収益	1,036	2,100	→ 2,100
営業利益	45	75	↗ 85

○

（進捗・評価）
- 低温物流は物量増加や適正料金収受が継続し、好調に推移
- 国内3PLは新規案件獲得や適正料金収受の効果等により堅調に進捗

（下期見通し）
- 低温物流、国内3PLともに生産性向上や適正料金収受の徹底により堅調な業績推移を見込む

グローバル物流事業

（億円）

	2Q累計 実績	期初 通期予想	修正後 通期予想
営業収益	2,475	3,800	↗ 4,400
営業利益	66	40	↗ 85

◎

（進捗・評価）
- EFL構造改革は計画通り進捗
- モリソンの営業強化・シナジー創出は計画を上回って進展
- 航空運賃市況の好調や物量増加も寄与し、計画を上回って推移

（下期見通し）
- 取扱物量は計画を上回る想定
- シナジー創出額は通期目標を前倒しで達成する見込み
- 航空運賃は今後正常化見込みも、今期中の前期割れ可能性は低い

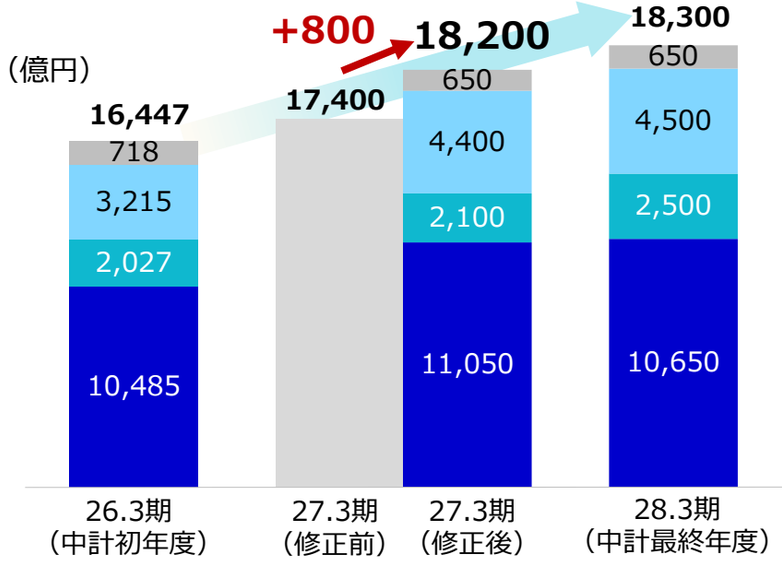
注記 (1) 億円未満切り捨て

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

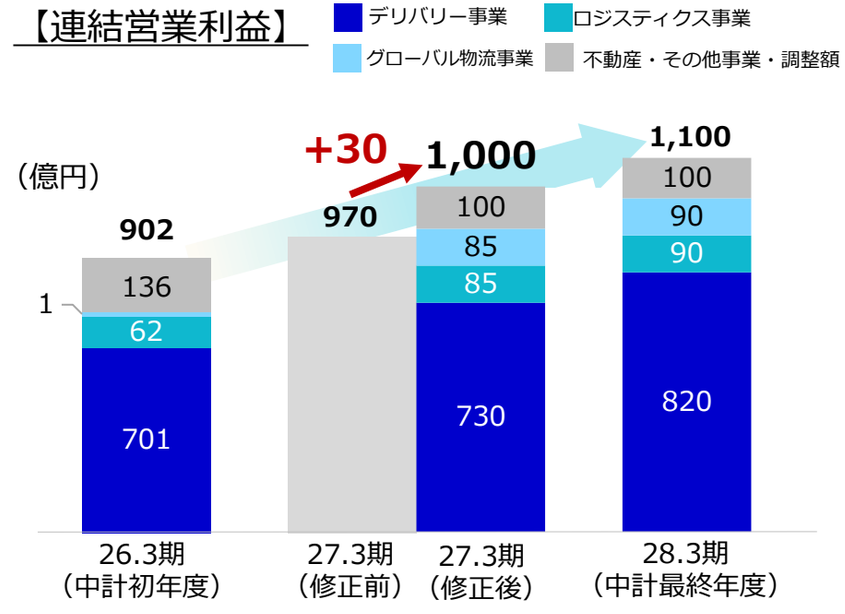
中期経営計画の進捗・評価

■ **グローバル物流事業の業績改善とロジスティクス事業の順調な進捗により、中計最終年度の目標達成確度が向上**
■ **最終年度目標の営業利益1,100億円、ROE12%達成に向け着実に前進**

【連結営業収益】



【連結営業利益】



【KPI】

	26.3期	27.3期 修正前	27.3期 修正後	28.3期
営業利益率	5.5%	5.6%	**5.5%**	6.0%
ROE	10.5%	11.0%	**11.8%**	12%
ROIC	7.0%	6.8%	**7.0%**	8%

	進捗評価	今後の重点施策
デリバリー	✓ 取扱個数と平均単価のバランスを見直し、利益成長を実現 ✓ 今期の委託調達環境の変化に対応し、輸送能力の確保を強化	✓ リアルコマース®、飛脚クール便®などの成長領域を拡大 ✓ 顧客・荷物特性に応じた価格交渉による収益性改善 ✓ 輸送ネットワークの効率化と事業基盤の強靭化の徹底
ロジスティクス	✓ 生産性向上と適正料金収受により、利益率が過去最高水準に改善 ✓ 低温物流の成長加速に向けたキャパシティ確保が課題	✓ 低温物流: 食品EC・共同配送などの成長領域への展開、キャパシティ拡充を推進 ✓ 国内3PL: 高採算案件へ集中し、生産性向上と事業規模拡大を両立
グローバル物流	✓ EFLのコスト構造改革が進展し、業績の安定性が向上 ✓ モリソンの営業強化やシナジー創出が奏功 ✓ 運賃市況の好調も後押しし、当初計画を上回る成長を実現	✓ 共同調達・共同営業を通じたシナジー創出を一段と加速 ✓ EFLの構造改革を完遂させ、次のステップとしてモリソンとの事業運営の一体化をさらに推進

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

資本政策（株主還元施策）

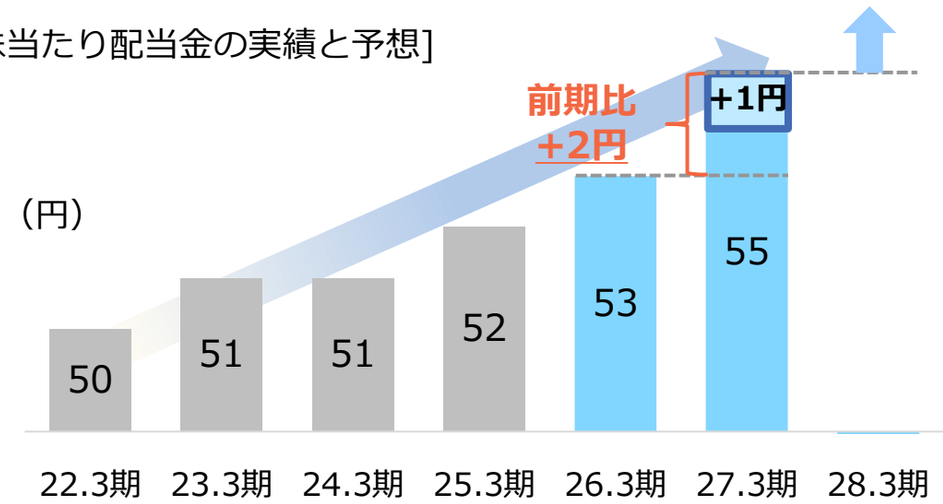
■ **当期業績の上方修正、中期経営計画の進展を踏まえ、当期の配当予想を１株当たり１円引き上げ（前期＋2円）**
■ **中期経営計画の資本政策に基づき、自己株式取得を着実に実行**

中期経営計画株主還元方針：　３カ年累計総還元性向60%以上

配当：累進配当

目的	利益成長を株主還元に反映し、成長の果実を株主と共有
実施内容	当期末配当予想を１円引き上げ（1株当たり54円→55円） →前期に対して2円増配。来期も今期水準が累進配当のベース

[1株当たり配当金の実績と予想]

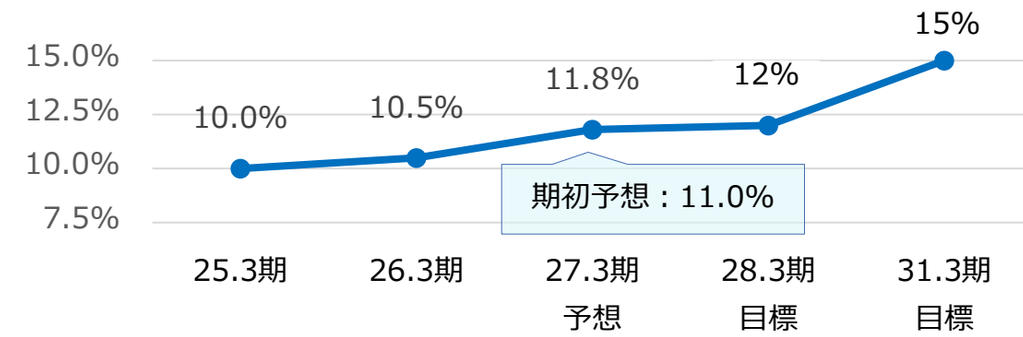


機動的な自己株式取得：中計期間中600億円取得

目的	中期経営計画の資本政策を着実に実行→資本効率の向上	
実施内容	2026/3期	450億円　取得済み
	2027/3期（当期）	**150億円　実行予定**

[ROEの実績と見通し]

資本効率向上と利益成長により、
中長期ROE目標の確実な達成を実現



Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD.　All Rights Reserved.

1. エグゼクティブサマリー 1 ～ 5

2. 決算概要及び業績予想 6 ～ 9

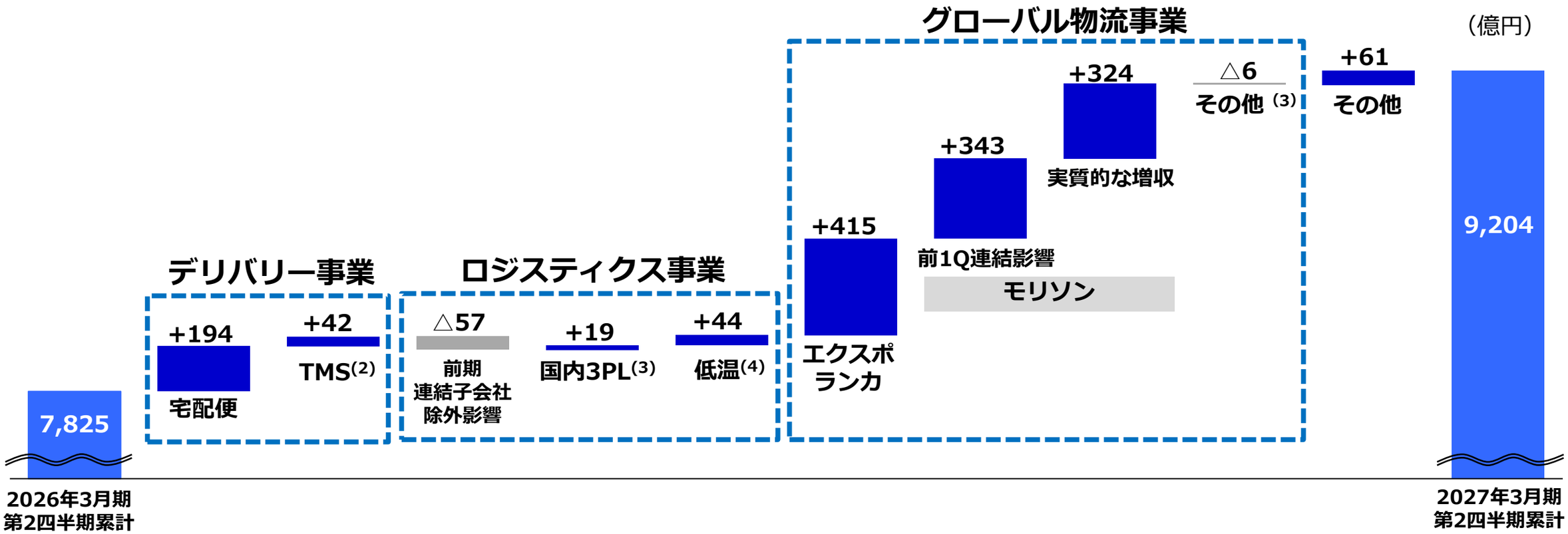
3. セグメント別進捗 10 ～ 16

4. M&A成果とキャッシュアロケーション方針 17 ～ 21

5. 参考資料 22 ～ 35

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

営業収益の増減分析



【宅配便・TMS】

- 平均単価 : 657円 (前年同期差 △1円)
- 取扱個数 : 690百万個 (前年同期比 104.7%)
- TMS売上高 : 709億円 (前年同期比 106.4%)

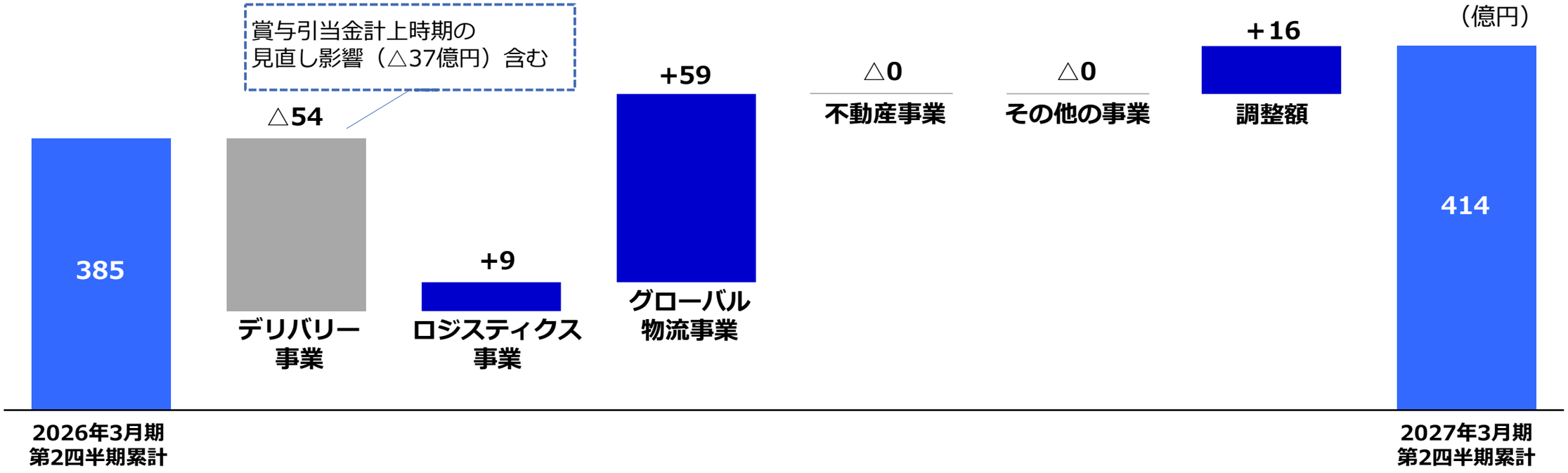
【フォワーディング】

- 航空物量 : 191千ｔ (前年同期差 122.5%)
- 海上物量 : 150千TEU (前年同期差 112.9%)

注記 (1) 億円未満切り捨て
(2) TMSはTransportation Management System、当社グループの物流ネットワークを活用した宅配便以外の付加価値輸送サービス。ロジスティクス事業とグローバル物流事業のTMS売上高を含む (3) TMSを除く (4) 名糖/ヒューテックを指す。名糖/ヒューテックとは、ロジスティクス事業で低温物流を担う事業会社の総称

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

営業利益の増減分析



デリバリー事業

・営業収益　＋287億円
　-宅配便売上高　＋194億円
　-TMS売上高　＋42億円
・人件費増加影響　△105億円
・外注費増加影響　△148億円
※費用詳細はP28参照

ロジスティクス事業

【低温物流】名糖/ヒューテック
・営業利益　＋9億円
【国内3PL】
・前期の子会社連結除外影響　△2億円

グローバル物流事業

【エクスポランカ】
・営業利益　＋39億円
【モリソン】
・営業利益　＋55億円
　（内、前1Q連結影響　+16億円）
・のれん等償却費影響　△15億円

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) TMS売上高には、ロジスティクス事業とグローバル物流事業のTMS売上高を含む
(3) 名糖/ヒューテック、エクスポランカ、モリソンの営業利益の増減には、のれん等償却費及びロイヤリティ費用を含まない

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

連結業績予想及び予想前提条件

■ 各セグメントの進捗や事業環境を踏まえ、セグメント別業績予想を見直し、連結営業収益・営業利益を上方修正

（億円）	今回予想（11/6公表）	セグメント別内訳	前回予想（5/8公表）	今回予想（11/6公表）	前回予想差
営業収益	18,200	デリバリー	10,900	11,050	+ 150
		ロジスティクス	2,100	2,100	–
		グローバル物流	3,800	4,400	+ 600
		不動産	130	130	–
		その他	470	520	+ 50
営業利益	1,000	デリバリー	760	730	△ 30
		ロジスティクス	75	85	+ 10
		グローバル物流	40	85	+ 45
		不動産	65	70	+ 5
		その他	20	20	–
経常利益	980		950	980	+ 30
親会社株主に帰属する当期純利益	650		600	650	+ 50

業績予想の前提条件ポイント

デリバリー事業：

✓ 上期までの実績、荷物構成を踏まえて取扱個数・平均単価を見直し
　取扱個数　13.9億個　→　14.2億個
　平均単価　　663円　→　　660円

✓ 燃料価格や委託単価が上昇する中、年末繁忙期に向けて安定輸送を支える輸送能力を先行確保し、持続的な輸送体制を強化

✓ 上記も踏まえ費用全体を見直し

グローバル物流事業：

✓ 構造改革等の各施策が計画どおりに進捗していることや、上期までの航空運賃の好調、及び下期にかけて物量の増加傾向が継続する見通しを踏まえ、収益・利益・物量計画を見直し

エクスポランカ
　営業収益　1,860億円　→　2,300億円
　営業利益　　30億円　→　　55億円

モリソン
　営業収益　1,500億円　→　1,910億円
　営業利益　　70億円　→　　110億円

経常利益以下：

✓ 政策保有株式の売却益（特別利益）　+45億円

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) 連結業績予想の前提条件の詳細はP33に掲載

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

1. エグゼクティブサマリー 1 ～ 5
2. 決算概要及び業績予想 6 ～ 9
3. セグメント別進捗 10 ～ 16
4. M&A成果とキャッシュアロケーション方針 17 ～ 21
5. 参考資料 22 ～ 35

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

第2四半期のセグメント別業績及び通期業績予想

（億円）

		2027年3月期 第2四半期	前年同期比	2027年3月期 第2四半期累計	前年同期比	通期予想（11/6公表）	前回予想差額	第２四半期の進捗評価	
デリバリー事業	営業収益	2,689	104.7%	5,374	105.7%	11,050	+150	△	✓ 取扱個数が計画から上振れて増収、賞与引当金の上期傾斜により減益（当初計画どおり） ✓ 年末繁忙期の安定輸送に向けた輸送能力を増強。利益計画を見直し
	営業利益	122	73.2%	249	82.0%	730	△ 30		
	営業利益率	4.5%	△2.0pt	4.6%	△1.4pt	6.6%	△0.4pt		
ロジスティクス事業	営業収益	525	100.9%	1,036	100.2%	2,100	–	○	✓ 低温物流は物量増加や適正料金収受の進展等により好調に推移 ✓ 国内3PLも、取扱商材の拡大や新規案件の収益化等により堅調に推移し、セグメント全体で計画を上回って進捗
	営業利益	25	157.5%	45	125.0%	85	+10		
	営業利益率	4.9%	+1.8pt	4.4%	+0.9pt	4.0%	+0.4pt		
グローバル物流事業	営業収益	1,348	149.2%	2,475	177.1%	4,400	+600	◎	✓ 物量増加と運賃市況の好転により通期利益目標を前倒しで達成 ✓ EFLのコスト構造改革、モリソンとのシナジー施策は計画どおり進行
	営業利益	39	669.0%	66	922.8%	85	+45		
	営業利益率	2.9%	+2.2pt	2.7%	+2.2pt	1.9%	+0.8pt		
不動産事業	営業収益	15	94.3%	33	96.2%	130	–	○	✓ 計画どおり進捗
	営業利益	10	95.4%	23	98.3%	70	+5		
	営業利益率	68.5%	+0.8pt	70.0%	+1.5pt	53.8%	+3.8pt		
その他の事業	営業収益	152	107.5%	284	104.6%	520	+50	○	✓ 大型トラックを中心に新車販売の増加等により増益
	営業利益	8	87.2%	16	96.4%	20	–		
	営業利益率	5.8%	△1.4pt	5.8%	△0.5pt	3.8%	△0.5pt		

注記　(1) 億円未満切り捨て

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

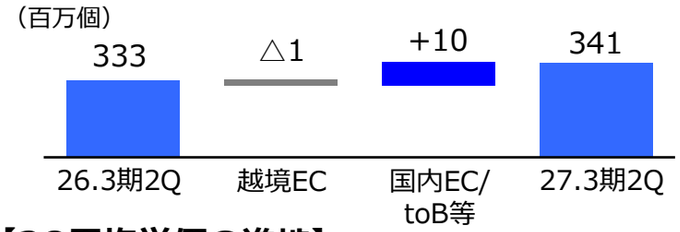
デリバリー事業　第2四半期の進捗

■ **2Qの取扱個数は国内EC等を中心に増加。平均単価は取扱構成の変化もあり前年同期比で改善**
■ **2Qの営業利益は、輸送体制強化等の影響により前年同期を下回る進捗。下期は収益性改善に向けた取組みを着実に推進**

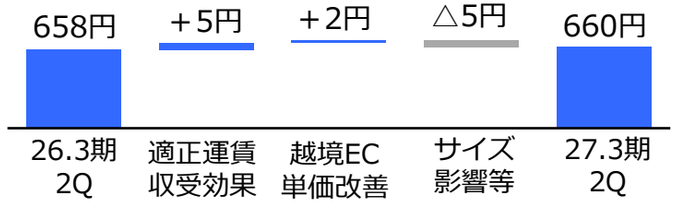
営業利益の主な変動要因

前期2Q実績 vs 今期2Q実績	↘	• 賞与引当の計上時期の見直しによる一時的な費用（21億円）の上期偏重※のほか、安定した輸送体制構築に係る費用増加等の影響で減益　※当該影響は通期で解消
今期2Q計画 vs 今期2Q実績	↘	• 取扱個数上振れの一方、委託調達環境のタイト化を踏まえ、安定した輸送体制構築のための先行コストを計上 • TMSは堅調に進捗（計画比103%）

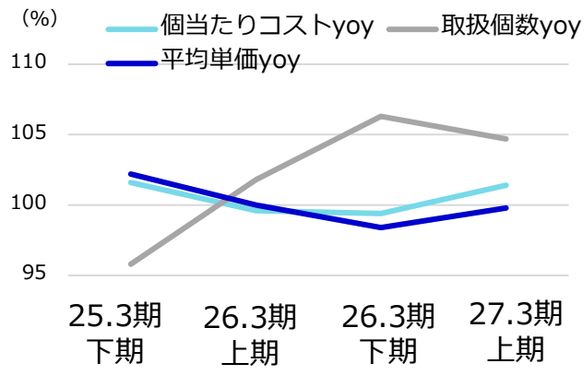
【2Q取扱個数の進捗】



【2Q平均単価の進捗】



【個当たりコストの進捗】



成長領域の進捗

- 飛脚クール便は高い成長を見込んだ計画に対してやや遅れるも、新規・拡張営業の成果により前年同期比では着実に伸長
- リアルコマース(1)はサービス拠点の拡大や認知度向上施策が利用拡大につながり、好調に推移

サービス	通期目標	（前期比）	当2Q累計実績	（前年同期比）
越境EC(2)	ー	ー	63百万個	109.1%
飛脚クール便	53百万個	114%	24百万個	106.3%
リアルコマース	4百万個	207%	2百万個	319.0%

通期・中計達成に向けた取組み

課題	• 燃料価格や委託コスト上昇等の環境変化への対応 • 安定的な輸送サービスの提供と収益性維持・改善の両立
対応方針／施策	• 適正運賃収受の徹底： 燃料サーチャージ導入準備、個別運賃の適正化を徹底 • 効率化：輸送ネットワークを改善し、下期から効率化効果を創出。次年度以降も継続し、収益性を改善

注記　(1) コンシューマー（個人のお客さま）が立ち寄る場所で提供する配送サービス
(2)越境ECについては、2026年3月期時点で中期経営計画における取扱個数目標を達成したことから、当期は収益性も意識しながら持続的な成長を目指していく方針

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

デリバリー事業　業績予想変更の理由と今後の見通し

■ **委託調達環境のタイト化を踏まえ、年末繁忙期の安定的な輸送体制構築のため、輸送能力を2Qで先行確保・増強**
■ **下期から単価改善・輸送ネットワーク効率化を徹底し、収益性改善を加速。中計最終年度目標の必達を目指す**

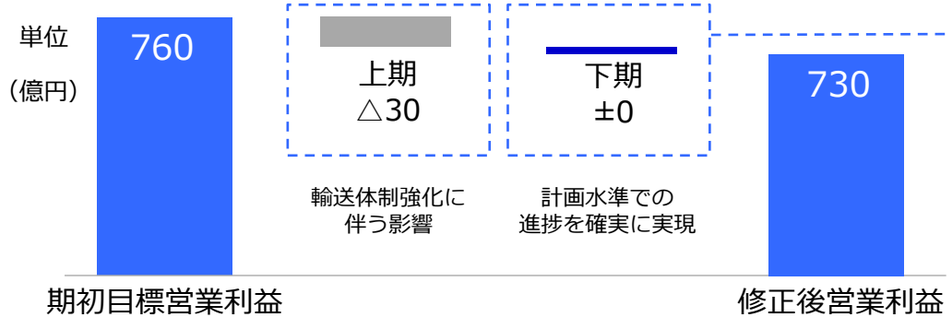
デリバリー事業の現状認識

- 燃料費の上昇や輸送力確保の難化により、輸送コストは上昇基調
- こうした状況を踏まえ、繁忙期の安定輸送を最優先に、輸送体制の強化に先行着手し、持続的な輸送体制を構築
- 取扱個数の増加による個当たりコストの低減は一定の効果創出が進展。今後は平均単価向上と効率化を徹底し、収益性改善を加速

デリバリー事業通期見通し

- 上期は先行的な輸送体制増強等により計画を下振れ
- 下期は、右記アクションを徹底して実行し、中計最終年度目標の達成に向けた事業・収益基盤を着実に強化する

【通期営業利益目標修正の考え方（計画対比）】



注記　(1) 億円未満切り捨て

下期以降の主要アクション

- 単価改善と輸送ネットワークの効率化に一段踏み込み、収益性向上を加速

単価改善

【適正運賃収受の徹底】

- 価格適正化の実行力を一段と強化。顧客・荷物特性に応じた価格交渉を行い、収益性を改善。特に当社の競争優位性を有する大型荷物で、適正な価格水準への引き上げを推進

【届出運賃の改定（2027年1月から実施）】

- 改定前比+約13.8%
- 適正運賃収受の考え方に基づき、特に飛脚ラージサイズ宅配便®を中心に価格水準を引き上げ

【燃料サーチャージ導入準備】

- 燃料価格の変動を運賃へ反映する仕組みの導入に向け、システム整備をはじめとする具体的な作業を推進中

効率化

【効率的な輸送網の再構築】

- 関東ハブセンターへの集約強化や関西ハブセンター本格稼働により、輸送ネットワークの効率化を加速

【幹線輸送台数の適正化・積載率の向上 】

- 拠点間の運行時間を管理し、それに連動した集荷体制を構築。輸送品質と積載率向上を両立し、輸送台数の適正化を徹底

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

ロジスティクス事業　第2四半期の進捗

■ **低温物流は、取扱物量の増加や適正料金収受の進展等により、1Qから引き続き好調に推移**
■ **国内3PLも、取扱商材の拡大や新規案件の収益化等により堅調に推移し、セグメント全体で計画を上回って進捗**

営業利益の主な変動要因

前期2Q実績 vs 今期2Q実績	↗	• 低温物流の取扱物量の増加等が寄与し、セグメント全体で増益で着地
今期2Q計画 vs 今期2Q実績	↗	• 低温物流の好調が1Qから継続し、計画を上回って推移。国内3PLも新規案件の獲得等により堅調に進捗

【ロジスティクス事業内訳】

（億円）

		26年３月期 2Q実績	27年３月期 2Q実績	前年同期比
ロジスティクス事業（全体）(2)	営業収益	491	525	106.9%
	営業利益 (のれん等償却調整後)	26	36	140.1%
	営業利益率	5.4%	7.0%	+1.7pt
低温領域	営業収益	309	334	108.1%
	営業利益	17	23	137.1%
	営業利益率	5.5%	7.0%	+1.5pt

低温・国内3PLの進捗

➢ 低温物流：新拠点の稼働に伴う新規顧客の獲得や適正料金収受の進展に加え、コンビニ向け配送における取扱商材の増加等により、好調に推移。既存顧客の深耕にも注力し、さらなるシナジー創出を推進

名糖運輸（共同配送主要拠点物量）	ヒューテックノオリン（共同配送）
↗108.5%	↗101.1%

◀低温物流
主要な配送物量実績前期2Q比較

➢ 国内3PL：取扱商材の拡大や新規案件の本格稼働が順次進展したことに加え、適正料金収受効果も寄与し、計画どおり堅調に進捗

中計達成に向けた取組み

課題	• 既存領域では適正料金収受等により収益性は改善。さらなる収益伸長のため、成長領域への事業拡大とリソース強化が必要
対応方針／施策	• 低温物流：キャパシティ拡大により、新規需要への対応力を強化。顧客ごとの原価管理の徹底を含めた適正料金収受・生産性改善による収益性向上を継続するとともに、食品EC等の成長領域への展開を推進 • 国内3PL：営業リソースを高採算案件へ集中し、既存事業の収益性向上と事業領域の拡大を推進する

注記　(1) 億円未満切り捨て (2) 前期連結除外した子会社の業績（営業収益29億円、営業利益1億円）を除いた数値で比較
(3) 低温物流の営業利益はSGHに対するロイヤリティ費用を含めて表示。参考資料P29の営業利益は、単体実績を示すため当該費用を除外している

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

グローバル物流事業　第2四半期の進捗

■ **前四半期から続く航空貨物運賃の高騰基調に加え、営業強化による物量確保や構造改革の進展も寄与し、好調に推移**
■ **シナジー創出も計画を上回るペースで進捗しており、通期目標12.0百万ドルを前倒しで達成する見込み**

営業利益の主な変動要因

前期2Q実績 vs 今期2Q実績	↗	• 1Qから続く航空運賃市況の上昇を背景に、イールドが高水準で推移 • 継続的な営業強化により、前年を上回る取扱物量を確保
今期2Q計画 vs 今期2Q実績	↗	• 航空運賃市況が想定を上回る水準で推移 • 継続的な営業強化により、計画を上回る取扱物量を確保

【取扱物量・販売単価　前2Q-当2Q/ 当2Q計画-当2Q実績比較】

EFL(1)

		前期比	計画比
航空	取扱物量	↗126%	↗112%
	販売単価	↗118%	↗116%
海上	取扱物量	↗117%	↗110%
	販売単価	↗137%	↗160%

モリソン

		前期比	計画比
航空	取扱物量	↗126%	↗112%
	販売単価	↗107%	↗103%
海上	取扱物量	↗114%	↗108%
	販売単価	↗124%	↗116%

主要アクションの進捗

- EFLコスト構造改革は計画どおり進捗中。下期にかけて効果が本格的に発現する見込み
- シナジーは通期目標（12.0百万ドル）を上回り、20.0百万ドルの着地を見込む

EFLコスト構造改革	・24百万ドル削減に向け構造改革を推進中 ・2Q時点の削減額は6.1百万ドル（2Q単体では3.8百万ドル）
モリソン営業強化	・大手半導体メーカーを中心とした営業活動を継続強化 ・営業活動の成果として、計画を上回る物量を確保
シナジー創出推進	・共同営業活動を中心に順調に進捗中 ・2Q時点の効果額は11.2百万ドル（2Q単体では7.2百万ドル）

中計達成に向けた取組み

課題	• 物量増加やモリソンの営業力を背景に、フォワーディング事業は順調に進捗。好調な業績を一過性としない安定的な収益基盤の構築が必要
対応方針／施策	• EFL・モリソンの事業運営の一体化やノンコア事業の整理等による構造改革を加速

注記　(1) EFLはエクスポランカの傘下にあるフォワーディング機能を有する事業会社の総称

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

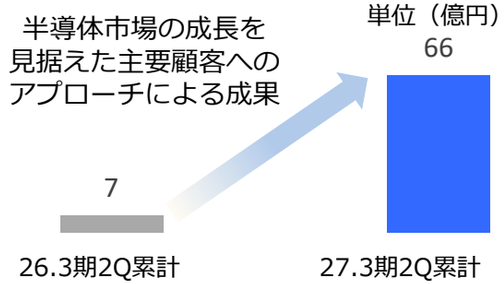
グローバル物流事業　事業基盤強化に向けた取組み

■ **モリソンのグループ化を端緒とし、グローバル物流事業は成長を加速。当社グループの中長期的な成長ドライバーへ**
■ **半導体市場の成長を取り込むモリソンに加え、EFLの構造改革も進展。事業基盤を強化し、持続的な成長につなげる**

営業利益の増加要因分析

- 半導体市場の成長を着実に取り込むとともに、単価交渉を通じて高いイールドを確保し、安定的な収益成長を実現
- 加えて、主要アクションとしているシナジー創出も利益に貢献

【グローバル物流セグメント営業利益前2Q-当2Q実績比較】



営業力の強化が利益成長を牽引

営業活動の強化やシナジー創出等が奏功

営業活動・シナジー創出をさらに加速し、
持続的な利益成長につなげる

EFLコスト構造改革進捗

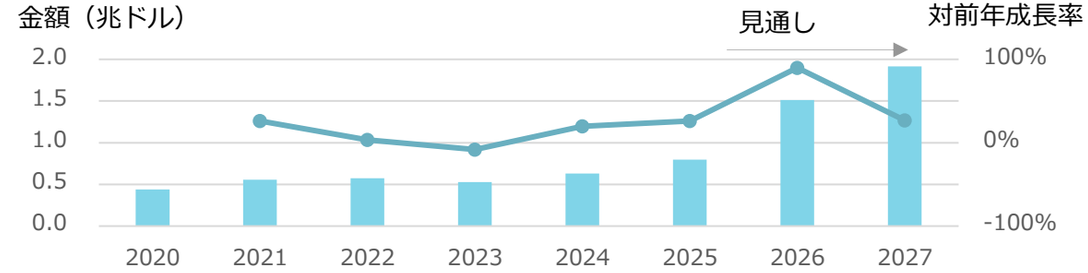
- EFLの構造改革は着実に進展。下期から改革効果が本格化する予定
- 本年度の改革効果17百万ドルを見込み、残る施策も次年度にかけて着実に実行

1Q実績	2Q実績	下期以降	合計
2.3百万ドル	3.8百万ドル	18.3百万ドル	**24.4百万ドル**

半導体市場の成長とモリソンの持続的成長

- 大手IT企業によるデータセンター・AIサーバー投資の継続等を背景に、世界半導体市場は拡大基調が継続する見通し
- モリソンの強みは、上流の半導体から最終完成品までハイテク物流の全チェーンをグリップしている点。需要変化を捉え続けることで、市況変動に左右されにくい強固な収益基盤を確立している

【世界半導体販売額の推移と成長見通し】(2)



【ハイテク産業関連バリューチェーン】



バリューチェーン全体を網羅し、需要シフトを捉え持続的に成長

注記　(1) 億円未満切り捨て (2)一般社団法人ＷＳＴＳ日本協議会による公表データより当社作成

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

1. エグゼクティブサマリー 1 ～ 5
2. 決算概要及び業績予想 6 ～ 9
3. セグメント別進捗 10 ～ 16
4. M&A成果とキャッシュアロケーション方針 17 ～ 21
5. 参考資料 22 ～ 35

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

M&A戦略の方針

■ **大型M&A2件は、PMIを経て事業基盤の整備が進展し、営業強化・シナジー創出による成長フェーズへ移行**
■ **営業力の強化とシナジー創出を加速し、さらなる収益成長を実現していく**

～2025.3期　～2026.3期　～2027.3期　～2028.3期（現中計）

宅配便以外の領域拡大へ

業界環境
- 国内宅配便市場の伸長緩和
- 厳しい競争環境の継続

当社のありたい姿
- お客さまおよび社会において、必要不可欠な存在(＝インフラ)であり続ける

M&A方針
- ロジスティクス事業・グローバル物流事業を育成事業領域と定め、投資拡大

2025.3期
名糖／ヒューテック（旧C&F社）を買収

2026.3期
モリソンを買収

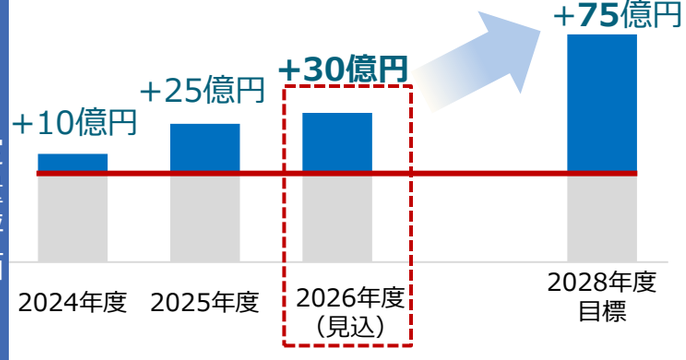
育成事業領域の基盤強化

- 個社事業の伸長と既存事業会社とのシナジー創出により、両案件とも順調に進捗
- 特にモリソンは当初計画を上回って推移し、グローバル物流セグメント全体の成長を牽引

定量評価

＜低温物流＞

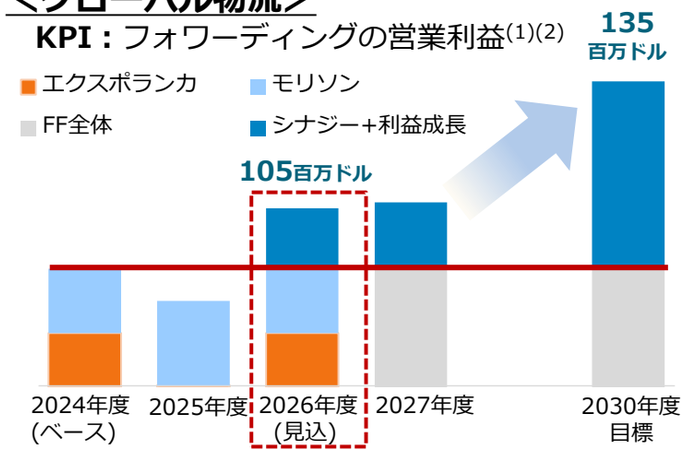
KPI：2023年度（名糖/ヒューテック連結開始前）比の低温領域の営業利益の増加額(1)



連結後５年で低温領域の営業利益目標＋75億円に対し、当2Q時点で**＋17億円**（通期目標+30億円）で好調に進捗

＜グローバル物流＞

KPI：フォワーディングの営業利益(1)(2)



2030年度の営業利益目標 135百万ドルに対し、当2Q時点で **73百万ドル**（内、モリソン **44百万ドル**）で業績拡大に貢献

定性評価

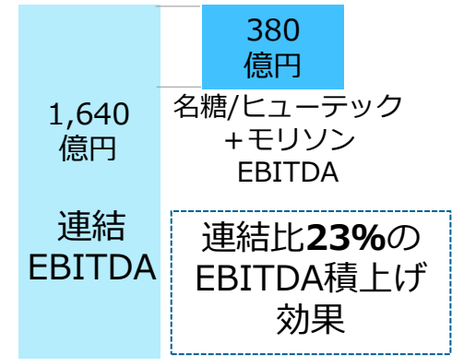
- ✓ 温度管理・運用ノウハウを獲得
- ✓ 定温・低温を通じた提供価値の拡大

- ✓ ハイテク物流の専門性・顧客基盤を獲得
- ✓ EFL・国内物流との連携による提供価値の拡大

物流サービス領域の拡大

- M&Aで拡大した事業領域を基盤に、さらなる収益力の強化を図る
- 創出したキャッシュを成長投資・株主還元の拡充につなげる

■2026年度連結EBITDA（見込）



注記　(1) のれん等償却前の営業利益　(2) 2024年度のモリソンの連結数値は、2024年12月期。2025年度以降は、決算月を3月期へ換算

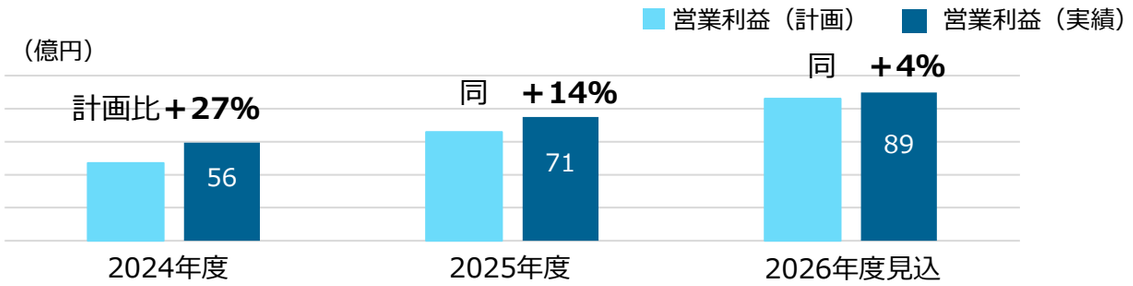
Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

M&A案件の成果　－名糖／ヒューテック－

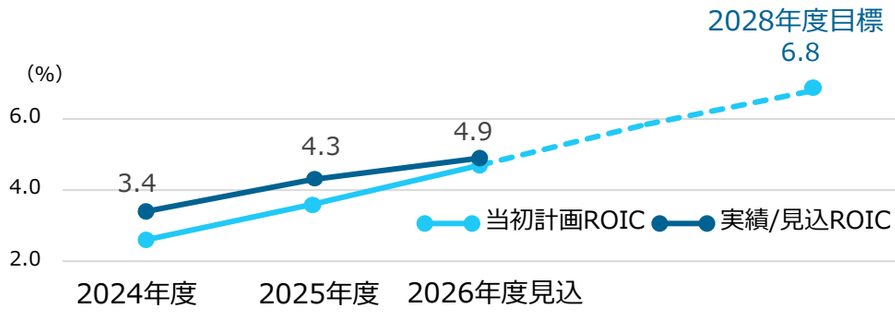
■ **名糖／ヒューテックは生産性改善・適正料金収受等により買収時計画を上回る業績で推移**
■ **低温物流基盤の獲得とSGHグループの既存機能との連携により、コールドチェーンの構築・高度化が進展**

■M&A後の営業利益（当初計画対比）

- 既存顧客の収益性改善や、デリバリー事業からの送客等による低温EC・低温TMS領域での取組みの拡大により営業利益は上振れて推移



■M&A後のROIC推移（当初計画対比）(1)(2)



■ シナジー創出の概要

- 川上から川下まで一貫してソリューションが提供できる国内屈指のコールドチェーンの構築・高度化

名糖／ヒューテック		SGHグループ
全国の低温物流施設・幹線輸送ネットワーク	×	ラストワンマイル輸送能力
低温物流センターの運営・建築ノウハウ	×	全国の物流リソース
食品物流を中心とした安定した顧客基盤	×	幅広い顧客基盤・営業力

■ 今後の成長ストーリー

既存事業の成長

- 保管・流通加工・配送の一体提案による高付加価値化
- 顧客ごとの特性に応じた原価管理や適正料金収受・稼働率向上による収益性向上

シナジー創出・成長投資

- グループ顧客基盤・輸配送網を活用した食品EC等の新規獲得・既存領域拡大
- 需要拡大を見据えた拠点・輸送能力への投資

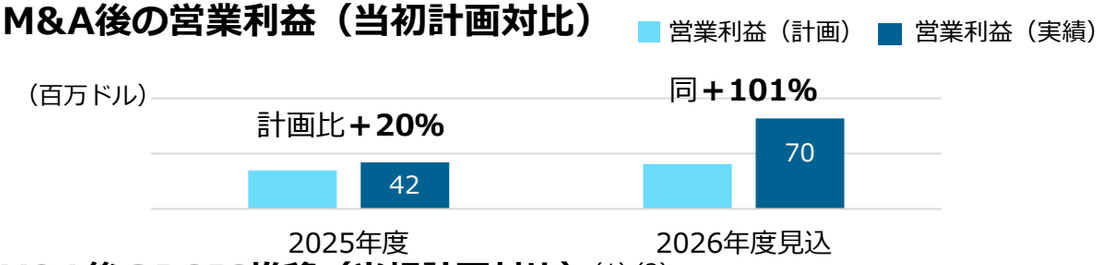
注記　(1) ROIC＝NOPAT／投下資本。NOPATは営業利益から実効税率相当額を控除、投下資本は株式取得額で算出（のれん等影響額を除く）
(2) 2024年度実績は連結開始前の期間を含む参考値

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

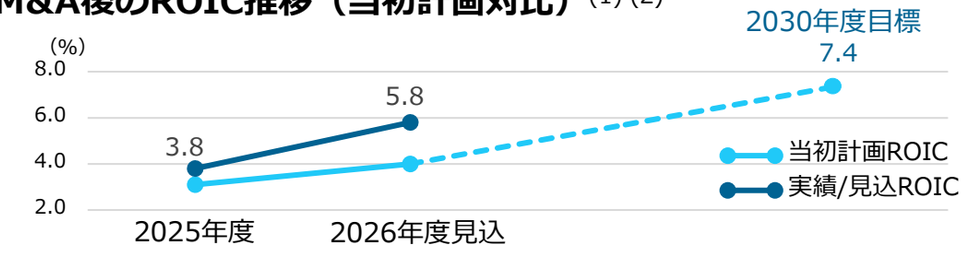
M&A案件の成果　–モリソン–

■ **半導体関連の物流需要を着実に取り込み、買収後も力強い成長を継続。当初計画を大きく上回る業績で推移**
■ **EFLとの連携を通じたシナジー創出も順調に進展しており、さらなる成長余地を追求**

■ M&A後の営業利益（当初計画対比）

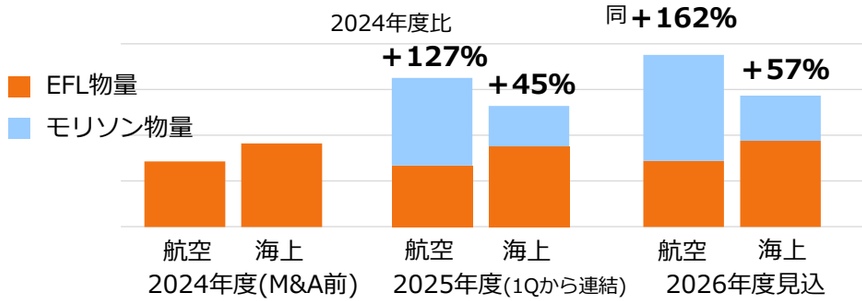


■ M&A後のROIC推移（当初計画対比）(1) (2)



■フォワーディング事業の物量推移

- EFL（世界約30位）＋モリソン（同約20位）で、世界Top10を視野に入れる規模へ



■ 営業面でのシナジー創出の概要

- 両社の顧客基盤・営業ネットワークを相互活用し、新規顧客の獲得・既存顧客との取引拡大を推進
- 次年度以降も同規模以上のシナジー創出を目指し、大型コマーシャル案件のパイプラインを積み上げ中

顧客基盤を活用したクロスセル	• EFLからの顧客紹介を起点に、モリソンが米系半導体製造装置メーカーのアジア域内航空輸送・通関を新規獲得 →営業利益約5.7百万ドルを創出（2027年3月期上期累計実績）
既存顧客の取扱領域・レーン拡大	• 両社の既存顧客に相互の輸送機能を展開し、航空・通関・米国内陸輸送等へ取扱領域を拡大 →米系ハイテク企業：インド発米国着の航空輸送 →米系アパレル企業：東南アジア→欧州の航空輸送等

■ 今後の成長ストーリー

EFLとのシナジー創出最大化

- プロキュアメント活動の共同化による調達力の強化
- 営業連携・倉庫の相互活用による収益機会の拡大

フォワーディング事業基盤の強化

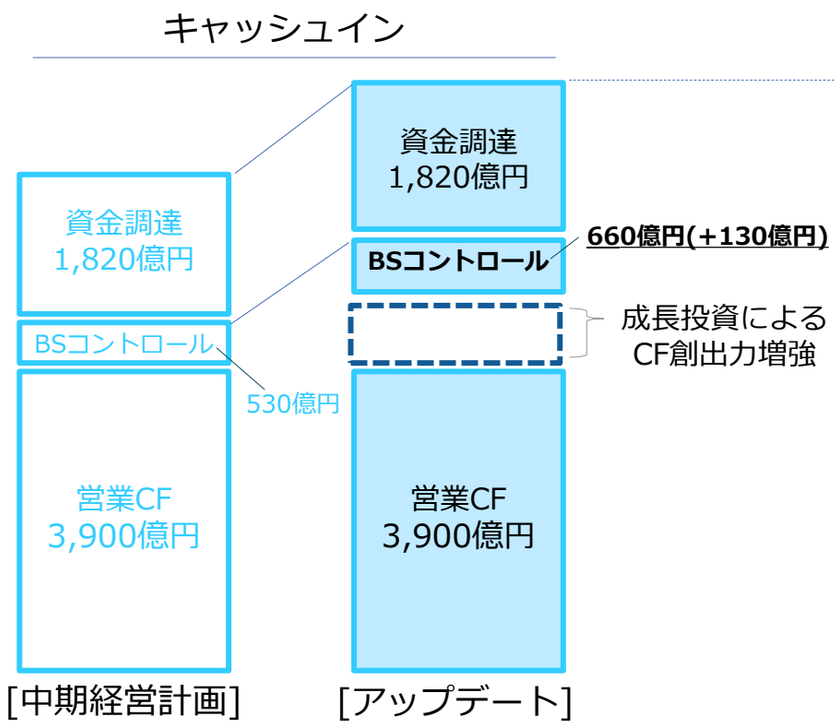
- EFL・モリソンの事業運営の一体化等による構造改革を加速

注記　(1) ROIC＝NOPAT／投下資本。NOPATは営業利益から実効税率相当額を控除、投下資本は株式取得額で算出（のれん等影響額を除く）
(2) 計画は12月決算、実績は連結後の3月決算に基づく。なお、2025年度実績は連結開始前の期間を含む参考値

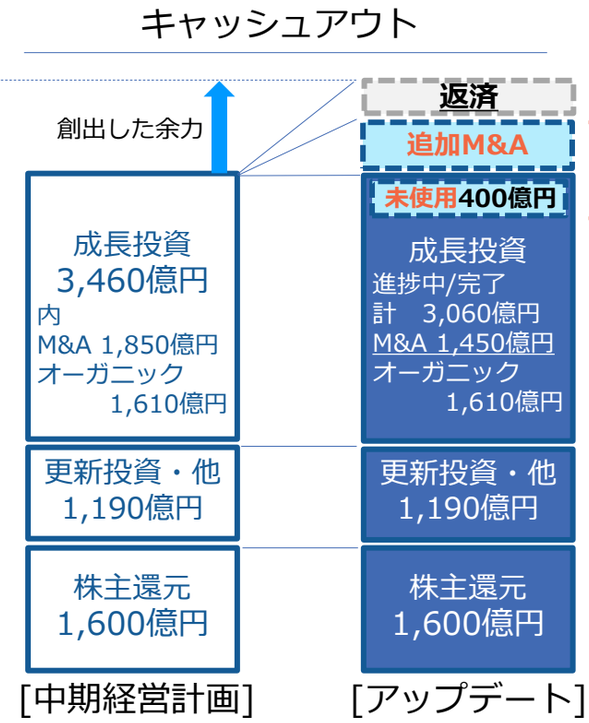
Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

キャッシュアロケーションの見直し

■ **大型M&A2件はPMIが終了し、投資効果創出が進展。当初想定を上回る利益貢献はキャッシュの早期回収にも寄与**
■ **キャッシュの積み上げを進め、M&Aを含む成長投資に向けた投資余力を拡大し、2030年度のROE15%達成を目指す**



- 成長投資によるCF創出力を着実に増強し、営業CFを改善
- 現預金や資産の圧縮も進め、BSコントロールによるキャッシュ創出も拡充



- オーガニックの成長投資、更新投資、株主還元は計画通りを想定
- M&Aについてはモリソンへの投資額を除く400億円が残額
- キャッシュインの改善による余力を、追加M&Aと借入金返済に配分

営業キャッシュフローの積み上げ
→追加M&A枠の確保を検討
（未使用 400億円を含む）

- ✓ 成長投資の効果創出等により生み出したキャッシュを次の成長投資につなげ、ROE15%の早期達成を目指す
- ✓ M&Aも活用し、トータルロジスティクスの高度化を加速。他社が追随できない競争優位を構築し、事業成長と収益性改善による中長期的なROIC・ROEの向上を実現

M&A対象領域の考え方

- ロジスティクス・グローバル物流事業を中心とする成長領域へ経営資源を重点配分
- 物流機能、エリア、顧客を補完・拡張できる領域で、特に高成長の分野がターゲット

ロジスティクス
-メディカル
-半導体・ハイテク

グローバル物流
-米国3PL
-フォワーディング

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

1. エグゼクティブサマリー 1 ～ 5
2. 決算概要及び業績予想 6 ～ 9
3. セグメント別進捗 10 ～ 16
4. M&A成果とキャッシュアロケーション方針 17 ～ 21
5. 参考資料 22 ～ 35

①連結貸借対照表 P.24
②連結キャッシュ・フロー計算書 P.25
③連結キャッシュ・フロー計算書　主な内訳 P.26
④連結業績サマリー（四半期連結会計期間） P.27
⑤デリバリー事業業績サマリー（四半期連結会計期間） P.28
⑥名糖/ヒューテックの実績 P.29
⑦エクスポランカの実績 P.30
⑧モリソンの実績 P.31
⑨連結業績予想及び配当予想 P.32
⑩連結業績予想の前提条件（詳細） P.33
⑪商品・サービスの状況 P.34
⑫従業員・車両・拠点の状況 P.35

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

お知らせ：グローバル物流セグメントにおける月次取扱物量の開示開始

当社の中長期的な成長ドライバーであるグローバル物流セグメントへの理解を一層深めていただくため、四半期決算を補完する情報として、航空・海上貨物の取扱物量の月次開示を開始いたします。

今回開始する月次開示の概要

目的	• 当社の中長期的な成長ドライバーであるグローバル物流事業の理解の促進
内容	• 航空・海上貨物の月次取扱物量をEFL・モリソン別に開示（速報値）
頻度	• 初回：2026年11月6日（金） • 以降は、原則毎月末に前月分の実績を公表
掲載先	• 当社IRサイト（月次リリース及び一覧表）

当社の財務情報発信位置づけ

長期

長期の成長ストーリー
- 中期経営計画
- 統合報告書

業績・事業進捗
- 決算説明資料
- 決算短信
- 有価証券報告書

月次の事業動向 Update
- デリバリー事業月次取扱実績
- **グローバル物流事業月次取扱実績（航空・海上）**

実績

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

①連結貸借対照表

（億円）	2026年3月期末	2027年3月期 第2四半期末
流動資産	3,834	3,878
現金及び預金	967	730
営業債権及びその他の債権	2,306	2,608
棚卸資産	280	281
その他流動資産	281	257
固定資産	8,455	8,352
有形固定資産	5,443	5,437
のれん	1,455	1,394
その他固定資産	1,555	1,521
資産合計	12,290	12,231

（億円）	2026年3月期末	2027年3月期 第2四半期末
負債	6,803	6,687
買掛債務	1,012	1,099
有利子負債	3,944	3,726
その他	1,846	1,862
純資産	5,486	5,544
親会社株主帰属分	5,461	5,520
非支配株主持分	24	23
負債純資産合計	12,290	12,231
自己資本比率	44.4%	45.1%

注記　(1) 億円未満切り捨て

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

②連結キャッシュ・フロー計算書

（億円）	2026年3月期 第2四半期累計	2027年3月期 第2四半期累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	460	332
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,490	△ 93
フリーキャッシュ・フロー(2)	△ 1,030	239
財務活動によるキャッシュ・フロー	782	△ 432
現金及び現金同等物の増減額	△ 256	△ 219
現金及び現金同等物の中間期末残高(3)	912	709

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー　(3) 2027年3月期第2四半期において、預入期間が3か月超の定期預金残高があるため、連結貸借対照表の現金及び預金の金額と一致しない

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

③連結キャッシュ・フロー計算書　主な内訳

2027年3月期　第2四半期累計

（億円）

• 営業活動によるキャッシュ・フロー			332
主な内容：			
税金等調整前中間純利益			430
減価償却費			257
のれん償却額			46
賞与引当金の増減額	（△は減少）		56
売上債権の増減額	（△は増加）	△	324
仕入債務の増減額	（△は減少）		117
預り金の増減額	（△は減少）	△	62
未払消費税等の増減額	（△は減少）		49
未払費用の増減額	（△は減少）		14
前払費用の増減額	（△は増加）	△	17
法人税等の支払額		△	196

• 投資活動によるキャッシュ・フロー		△	93
主な内容：			
有形固定資産の取得による支出		△	153
無形固定資産の取得による支出		△	28
投資有価証券の売却による収入			65
• 財務活動によるキャッシュ・フロー		△	432
主な内容：			
短期借入金の純増減額	（△は減少）	△	437
長期借入れによる収入			335
長期借入金の返済による支出		△	108
リース債務の返済による支出		△	55
配当金の支払額		△	165

注記　(1) 億円未満切り捨て

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

④連結業績サマリー（四半期連結会計期間）

（億円）	第1四半期			第2四半期			第2四半期累計		
	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比
営業収益	3,674	4,473	121.7%	4,151	4,731	114.0%	7,825	9,204	117.6%
営業費用	3,499	4,272	122.1%	3,940	4,517	114.6%	7,440	8,789	118.1%
人件費	1,220	1,346	110.3%	1,258	1,318	104.8%	2,479	2,665	107.5%
外注費	1,686	2,266	134.4%	2,030	2,496	122.9%	3,717	4,763	128.1%
燃料費	43	54	125.9%	49	57	116.5%	92	111	120.9%
減価償却費	109	125	114.4%	120	132	109.7%	230	257	111.9%
その他経費	439	479	109.0%	481	512	106.4%	921	992	107.6%
営業利益 （営業利益率）	174 (4.8%)	200 (4.5%)	114.9%	210 (5.1%)	213 (4.5%)	101.4%	385 (4.9%)	414 (4.5%)	107.5%
経常利益	178	205	115.0%	202	192	95.1%	381	397	104.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	101	122	120.8%	131	156	119.1%	233	279	119.8%

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) 2026年３月期実績について、集計方法の見直しに伴い、営業費用の内訳を一部修正。なお、当該修正による営業費用合計への影響はなし

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑤デリバリー事業業績サマリー（四半期連結会計期間）

（億円）	第1四半期			第2四半期			第2四半期累計		
	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比
営業収益	2,517	2,684	106.7%	2,569	2,689	104.7%	5,086	5,374	105.7%
営業費用	2,488	2,661	107.0%	2,515	2,664	106.0%	5,003	5,326	106.5%
人件費	873	941	107.7%	863	901	104.4%	1,737	1,842	106.1%
外注費	1,262	1,340	106.1%	1,295	1,366	105.5%	2,558	2,706	105.8%
燃料費	31	39	124.0%	35	42	120.4%	67	81	122.1%
減価償却費	61	66	107.9%	62	69	111.4%	124	136	109.6%
その他経費	258	274	106.2%	258	284	110.2%	516	559	108.2%
営業利益 （営業利益率）	137 (5.4%)	126 (4.7%)	92.6%	166 (6.5%)	122 (4.5%)	73.2%	303 (6.0%)	249 (4.6%)	82.0%

注記 (1) 億円未満切り捨て (2) 営業収益は「外部顧客への営業収益」を表示。営業費用は「セグメント間の内部営業収益又は振替高」を含むセグメント営業収益合計に対する営業費用を表示

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑥名糖/ヒューテックの実績

ロジスティクス事業

（億円）	第1四半期			第2四半期			第2四半期累計		
	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比
営業収益	303	323	106.5%	309	334	108.1%	613	658	107.3%
営業原価	275	297	107.8%	284	307	108.2%	560	604	108.0%
営業総利益	30	33	111.1%	28	35	123.7%	58	68	117.2%
販売費及び一般管理費	10	11	103.2%	9	9	103.1%	20	20	103.1%
営業利益	19	22	115.6%	19	25	133.8%	38	47	124.7%

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) 営業収益は「外部顧客への営業収益」を表示。営業原価・販売費及び一般管理費は「グループ内部営業収益」を含む営業収益合計に対する営業費用を表示。ただし、販売費及び一般管理費は、SGHに対するロイヤリティ費用を足し戻した数字を表示。営業利益はこれに基づき算出

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑦エクスポランカの実績

グローバル物流事業

（億円）	第1四半期			第2四半期			第2四半期累計		
	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比
営業収益	388	531	137.0%	468	741	158.0%	857	1,272	148.5%
営業原価	311	437	140.5%	385	628	163.3%	696	1,066	153.1%
営業総利益	76	95	124.2%	83	114	137.2%	160	210	130.9%
販売費及び一般管理費	75	80	105.6%	78	84	107.4%	154	164	106.6%
営業利益	0	15	1,701.9%	4	30	619.8%	5	45	788.2%
航空　数量（千t）(2)	31	34	109.5%	34	43	125.6%	65	77	118.0%
海上　数量（千TEU）(2)	41	44	106.1%	48	57	116.7%	90	101	111.9%
[参考]為替レート（1$/円）(3)	144.59	159.49	110.3%	147.48	159.25	108.0%	146.04	159.37	109.1%

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) 小数点以下切り捨て　(3) 期中平均レート（累計AR）　(4) 営業収益は「外部顧客への営業収益」を表示。営業原価・販売費及び一般管理費は「グループ内部営業収益」を含む営業収益合計に対する営業費用を表示

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑧モリソンの実績

グローバル物流事業

（億円）	第1四半期（4-6月）			第2四半期（7-9月）			第2四半期累計		
	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比
営業収益	343	486	141.7%	324	505	155.9%	667	992	148.6%
営業原価	272	390	143.1%	275	406	147.3%	548	796	145.2%
営業総利益	71	104	146.8%	70	105	148.5%	141	209	147.7%
販売費及び一般管理費	54	67	125.3%	55	70	127.4%	109	138	126.4%
営業利益	16	36	215.9%	15	34	225.5%	32	70	220.4%
航空　数量（千t）(2)	44	55	125.3%	45	57	126.4%	90	113	125.9%
海上　数量（千TEU）(2)	20	23	116.6%	23	26	113.7%	43	49	115.1%
[参考]為替レート（1$/円）(3)	144.59	159.49	110.3%	147.48	159.25	108.0%	146.04	159.37	109.1%

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) 小数点以下切り捨て　(3) 期中平均レート（累計AR）　(4) 2026年3月期第1四半期の実績については、当社グループに連結される前の実績であるため参考値　(5) 2027年3月期第1四半期の営業収益は「外部顧客への営業収益」を表示。営業原価・販売費及び一般管理費は「グループ内部営業収益」を含む営業収益合計に対する営業費用を表示。なお、2026年8月6日公表の数値について、費用集計方法を見直した結果、販売費及び一般管理費の金額を修正している。当該修正による営業利益への影響はなし

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑨連結業績予想及び配当予想

（億円）		2026年3月期 実績	2027年3月期 前回業績予想 （2026年5月8日公表）	2027年3月期 業績予想	前期差	前期比	前回 予想差	前回 予想比
営業収益		16,447	17,400	18,200	+ 1,752	111%	+ 800	105%
営業利益 （営業利益率）		902 (5.5%)	970 (5.6%)	1,000 (5.5%)	+ 97	111%	+ 30	103%
経常利益		917	950	980	+ 62	107%	+ 30	103%
親会社株主に帰属する当期純利益		590	600	650	+ 59	110%	+ 50	108%
ROE		10.5%	11.0%	11.8%	+1.3pt	–	+0.8pt	–
ROIC		7.0%	6.8%	7.0%	+0.0pt	–	+0.2pt	–
（円）								
１株当たり配当金	第2四半期末	26	27	27	+ 2	–	+1	–
	期末	27	27	28				
	合計	53	54	55				

注記　(1) 億円未満切り捨て

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑩連結業績予想の前提条件（詳細）

		2027年3月期 業績予想前提	前期差/ 前期比
宅配便・TMS	平均単価	660円	＋ 4円
	取扱個数	14.2億個	104%
	TMS売上高	1,420億円	103%
名糖/ヒューテック（低温物流）	営業収益	1,310億円	107%
	営業利益(1)	89億円	125%
エクスポランカ社(2)	営業収益	2,300億円	132%
	営業利益	55億円	2,349%
	数量 航空	145千t	108%
	数量 海上	190千TEU	108%
モリソン社(2)(3)	営業収益	1,910億円	139%
	営業利益(1)	110億円	174%
	数量 航空	233千t	122%
	数量 海上	98千TEU	112%

		2027年3月期 業績予想前提	前期比
連結営業費用	人件費	5,350億円	106%
	外注費	9,070億円	115%
	減価償却費	550億円	116%
	その他(4)	2,230億円	104%
デリバリー事業営業費用	人件費	3,650億円	104%
	外注費	5,530億円	105%
	減価償却費	300億円	118%
	その他(4)	1,280億円	106%
為替レート	1$当たり	157円	

注記 (1) 前期比は当社グループ連結前の業績を含む通期業績を用いて算出しているため参考値 (2) エクスポランカ、モリソン業績はIFRS基準に基づく
(3) のれん等償却費、ロイヤリティ費用を除く (4) 「その他」は燃料費含む

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑪商品・サービスの状況

デリバリー事業　取扱個数・単価の状況

（百万個、円）	第1四半期			第2四半期			第2四半期累計		
	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比
取扱個数合計	326	349	106.8%	333	341	102.6%	659	690	104.7%
飛脚宅配便®(2)	317	339	107.0%	324	332	102.7%	641	672	104.8%
その他(3)	9	9	102.1%	8	9	101.4%	18	18	101.8%
平均単価	659	653	99.2%	658	660	100.4%	658	657	99.8%

［参考］2027年3月期第2四半期累計　対前年日数増減：平日△2、土曜+1、日曜祝日+1

TMSの状況

（億円）	第1四半期			第2四半期			第2四半期累計		
	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比	26年3月期	27年3月期	前年同期比
売上高	325	341	104.8%	341	368	107.9%	667	709	106.4%

注記　(1) 億円未満切り捨て　(2) 飛脚宅配便は、佐川急便㈱が国土交通省に届け出ている宅配便の個数　(3) その他は、飛脚ラージサイズ宅配便®の取扱個数

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

⑫従業員・車両・拠点の状況

（人、台、拠点）		2026年3月期末	2027年3月期 第2四半期末	前期末差
連結従業員数合計（うちパートナー社員等(1)）		105,764 (45,281)	106,595 (45,823)	+ 831 (+ 542)
	デリバリー事業	71,467 (29,609)	71,797 (29,781)	+ 330 (+ 172)
	ロジスティクス事業	21,924 (13,940)	22,399 (14,223)	+ 475 (+ 283)
	グローバル物流事業	7,994 (68)	7,872 (57)	△ 122 (△ 11)
	不動産事業	99 (2)	101 (2)	+ 2 (–)
	その他の事業	3,585 (1,457)	3,736 (1,570)	+ 151 (+ 113)
	全社（共通）	695 (205)	690 (190)	△ 5 (△ 15)
佐川急便㈱	車両台数	25,757	25,968	+ 211
	主な拠点数	833	837	+ 4
	中継センター	22	23	+ 1
	営業所	429	430	+ 1
	小規模店舗(2)	382	384	+ 2

注記　(1) 期中の平均人員数　(2) サービスセンター、デリバリーセンターの合計

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

ディスクレイマー

本資料は、SGホールディングス㈱（以下、「当社」とします）及びそのグループ会社（以下、当社とあわせて、「当社グループ」とします）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を目的とするものではありません。また、本資料の全部または一部を当社の承諾なしに公表または第三者に伝達することはできません。

本資料に、当社に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれることがありますが、これらに限られるものではありません。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提（仮定）の下になされています。これらの記述または前提（仮定）は、客観的には不正確であったり、または将来実現しないという可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクとしては、金利の変動、株価の低下、為替相場の変動、保有資産の価値変動、信用の低下、国内外の企業の生産活動または個人消費の低迷、原油価格の高騰、人件費の高騰、EC市場の低成長、システム・事務・人的・法令違反リスク、不正・不祥事の発生、風評・風説等によるイメージ・信用の低下、事業戦略・経営計画が奏功しないリスク、業務範囲の拡大等に伴う新たなリスク、経済・金融環境の変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、業務提携・外部委託等に伴うリスク、繰延税金資産の減少その他様々な要因が挙げられますが、これらに限られません。

なお、本資料における記述は本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。これらの要因により、将来の見通しと実際の結果は必ずしも一致するものではありません。

また、本資料に記載されている当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本資料中に記載の「飛脚クール便®」「リアルコマース®」「飛脚宅配便®」「飛脚ラージサイズ宅配便®」は当社の登録商標です。

Copyright © 2026 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.